

2017年6月18日(日)朝10:10

主の聖霊降臨節第3、自由交歓会等

6月第3父の日共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：第7のラツパ;勝利の讚美

聖書:ヨハネの黙示録 15章2～4節

＜口語訳＞

新約聖書401頁

ヨハネの黙示録 15章2～4節

＜新共同訳＞

新約聖書469頁

ヨハネの黙示録 15章2～4節

＜新改訳第3版＞

新約聖書492～493頁

ヨハネの黙示録15章2～4節

＜塚本訳＞

新約聖書808頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讚美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、龍(悪魔・サタン)礼拝要求の獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神の福音啓示と地上の諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の穀物刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入の裁き、15章1節は、金の鉢による神の最終裁きの序曲の一部です。

◇ヨハネの黙示録15章2～4節は、16章からの金の鉢による神の最終の裁き後の神の祝福への序曲の一部です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第15章2～4節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録15章2～4節；ヨハネは、天に凱旋した獣の名を額に刻印することを拒んだ人々の讚美の姿を見ました。

◇2～4節；塚本訳◆勝利の讚美歌

「2 また私は火の混じった(真赤な)玻璃の海のようなものを(天に)見た。(また)獣とその像とその名の数字とに勝った者が玻璃の海の辺に立ち、神の豎琴を持っている(のを見た)。

3 彼らは神の僕モーセの歌と仔羊の歌をうたって言う——主なる神よ、全能者よ、御業は大なるかな、驚くべきかな！諸々の国の王よ、なんじの道は義しきかな、真実なるかな！

4 主よ、誰が汝を畏れず、御名を崇めないであろう。(ただ)汝のみ聖にいまし給う。万国

(の民)は来たって汝の前に跪くであろう。
汝の(義しき)審判が(既に)顕れたから！」と、
ヨハネは、天の獣の名、その数字を刻まれ
なかった勝利者の讚美を聴きました。

◇2節；ヨハネは、主への讚美者が獣の名を
額に刻印することを拒んだ人々の勝利の歌
として歌うのを見ました。

⇒「**獣とその像とその名の数字とに勝った者**」
が、「**海の辺に立ち、神の豎琴を持っている**」
のを先ず、ヨハネは見ました。

⇒「**(真赤な)玻璃の海**」(**ガラスの海**)は、ヨハネ
黙示録4:6に御座の前の光景ですが、ここは、
そのことを思い起こさせる状況描写です。

⇒「**獣とその像とその名の数字とに勝った者**」
は、ヨハネ**黙示録13:18**の「**第2の獣・
偽預言者**」が、表示される数字666を指す
文字を額に刻むことを拒否した人々で、その
多くは、そのために殉教の死を負ったのです。

⇒地上では、苦難を背負いましたが、今、彼等が、
神の栄光の御座の」前で、「**神の豎琴を
持って**」歌い、**神**を讚美している光景をヨハネ
に、**神**は見せて下さったのです。

- ◇3節；「神の僕モーセの歌と仔羊の歌をうたって言う」、「主なる神よ、全能者よ、御業は大なるかな、驚くべきかな！」、「諸々の国の王よ、なんじの道は義しきかな、真実なるかな！」、
- ⇒3節の括弧の聖句は、申命記32章3節のギリシャ語訳聖書からの自由引用で、「主なる神」への讚美です。
- ⇒殉教した人々は、神信仰・神礼拝を全うした人々であることが、この讚美で鮮明に表明されています。
- ⇒ヨハネ黙示録6～14章の苦難は、16章～20章10節までの大患難に比べると、小患難だったのです。
- ⇒この大患難を耐え抜ける者は、だれか問われていますが、神を讚美し、神にどこまでもお従いできる人です。
- ⇒それがお出来になるのは、神の御子をおいて他にはありません。
- ⇒私たちは、地上の艱難・苦難を乗り越えさせ、どこまでも、神を讚美し、お従いなさる神の御子とともに生きることのみで、それが神礼拝であり、神信仰で、内住の聖霊は助け手です。

◇4節；「誰が汝を畏れず、御名を崇めないであらう」、「(ただ)汝のみ聖にいまし給う」、「万国(の民)は来たって汝の前に跪く」、「汝の(義しき)審判が(既に)顕れた」

⇒OS師は、申命記32章4節のギリシヤ語訳聖書からの自由引用の箇所から、「世界が神を畏れ、神をほめたたえる」理由が、3つあることを指摘しておられ、①「(ただ)汝のみ聖にいまし給う」こと、②「万国(の民)は来たって汝の前に跪く」こと、③「汝の(義しき)審判が(既に)顕れた」ことをあげておられます。

⇒①神が聖であられること、②神礼拝が世界的な規模で守られていること、③神の義が、審判という形で顕わされていることが、殉教者たちによって告白されているのです。

⇒出エジプト記15:1～18の紅海を渡らせ、迫害者・エジプトのパロから守って下さった神への讃美ですが、申命記からの引用聖句の小羊の歌は、黙示録16章からの大患難を①神の聖、②神礼拝、③神の義の顕現と神の民である教会の神礼拝に讃美の根拠を帰す。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」で、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通し(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録と理解。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰と神の御子の愛、2章～3章は、7つの教会への手紙、4～5章は、仔羊(羔羊)礼拝と大讃美、6～9章は、聖徒の戦い、10章は、神の恵みの啓示と審判、11章は、主の王即位と24人の長老の神礼拝、12章は、女性及び天使と龍(悪魔・サタン)との戦い、13章は、龍(悪魔・サタン)礼拝要求の獣との戦い、14章は、小羊への大讃美、神の福音啓示と地上の諸国への裁き、バビロン倒壊、神無視の人々への裁きと信仰者への忍耐の求め、殉教者の幸福と内住の御霊の声、再臨の御子の穀物刈りと天の穀倉への格納、神の怒りの葡萄刈りと酒槽投入の裁き、15章1節は、金の鉢による神の最終裁きの序曲の一部です。

◇ヨハネの黙示録15章2～4節は、16章からの金の鉢による神の最終の裁き後の神の祝福への序曲の一部です。

⇒「**神の栄光の御座**」での「**24人の長老**」と「**4つの生き物**」の**神礼拝・神讚美**は、「**主キリスト・イエス様が天のみならず、地の上・この世でも、王となり給うたことを感謝**」する結末を与えられています。

⇒地上に今生かされています私たちも、「**神礼拝・神讚美**」は、この幻のように実現することを信じて、「**主がこの世の王となり給うたことを感謝**」すると、告白しています。

⇒「**死**」という最大の苦難を思う前に、「**恵みの約束の神**」に思いを向けたいと、願います。

⇒ヨハネ黙示録は、「**苦難**」先にある「**神の救い**」という「**神の恵み**」を見せ、また指し示します。

⇒「**龍(悪魔・サタン)**」は、「**神のようになる**」目的を放棄していませんで、「**天では**」、「**彼らの(いる)場所が無くなった**」のですが、投げ落とされた地上で、「**神礼拝者・神信仰者**」を「**訴える本務**」を放棄することはしません。

- ⇒**神は、144,000人の殉教者の訴える祈り、を聞き、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々に「神の怒り」をもって、復讐して下さるのです。**
- ⇒**決して、神の怒りに先立ち、「獣礼拝者・龍(悪魔・サタン)礼拝者」とその誘惑に負けた人々を裁かず、むしろ、その罪・咎に気づけるように執成しをすることが求められています。**
- ⇒**多くの信仰の仲間の殉教を目にして絶望的になっている老使徒ヨハネに「今から後主にあって死ぬる死人は幸福である」、「彼らはその労苦を休息む(ことが出来る)」、「その(為した)業が彼らに随いて行く」と天から声と神の内住の御霊の声が与えられて、大きな慰めを神は与えて下さったのです。**
- ⇒**「穀物の刈り取り」、「主にある死人の勝利」は、「雲の上に人の子の再臨」のより実現します。**
- ⇒**その実現の時まで、神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」(黙示録13:10、14:12)です。**
- ⇒**神のご計画は、時が来れば、事は行われる(237頁)のです。**

- ⇒ 14～16節では、人の子なる神の御子が、**死人の勝利**の刈り取りをしたのに対し、17～20節では、**第5の天使、第6の天使**による**葡萄の刈り集め**は、「**神の憤怒の大きな酒槽** (さかぶね)」に投げ入れるという結末が語る通り、**神の怒りの復讐**が啓示されています。
- ⇒ 茲でも、**神の聖徒に求められるのは、「神信仰と忍耐」**です。私たちに**神**が期待されるのは、①**神礼拝に忠実**であり、②**神が創造した全ての人間が、神のみことばである聖書に聴く機会が与えられるように執成し祈ること**です。
- ⇒ **黙示録15:1**の**天の大きな、驚くべき徴**は、**神に反逆する者への「神による最後の災厄・神の憤怒」**です。それは、想像を絶する時間の経過を必要とする通告ですが、**神の預言**は必ず成就します。
- ⇒ **神の愛の律法・愛の福音**に聴き従い、**神礼拝**を通し、日々の聖書のみことばを静聴し、祈り、服従することを通して、「**神と隣人**」を愛し、「**最後の災厄**」から逃れる道を共に生きる**神の恵みの福音の道**をあかして生きたい！

◇15章2～4節では、**殉教者たちが、神の御座の前で、モーセが紅海渡渉を神の恵みとして神を讃美したように、申命記32章3～4節の聖句を用いて、神が罪から決別された存在であり、神が語られたことばを確実に実行されることを神讃美に託しているのです。**

⇒これから起きる大患難も、殉教者にとっては、**神が語られたことばに忠実であることを示される出来事として、神讃美の中身に含めているのです。**

⇒**神の裁き自体**を讃美しているのではなく、**神の真実**を告白しているのです。

⇒今日の教会に求められますのは、**神の真実**を告白する方法が、**神讃美**であるとともに、**神への執成しの祈り、神の赦しの恵み**が凡ての人々に与えられるようにと願うことなのです。

⇒「**神への祈り**」は、一般の人々からは空虚な働きに見えるかも知れませんが、「**主なる神よ、全能者よ、御業は大なるかな、驚くべきかな！**」なのです。

⇒どんな偉大な人間でも、**神の真実のわざ**を超えることはできないのです。